

静岡松涛タイムス 第54号

発行元：静岡県本部広報部 責任者：滝田宏平

連絡先：0547-36-1238(TEL) 0547-36-1293(FAX)

E-mail：kouheichan@tiara.ocn.ne.jp

URL： <http://www.shizuoka-karate.com/> (公式HP)

<http://www4.tokai.or.jp/sougou/> (広報部)

Photo：いちよう

県本部主催昇段審査会合格者

少年部初段	村松 愛菜(精誠館)	落合 晴信(焼将陽)	山本 勇輝(浜将陽)	高橋 姫花(律誠館)
長島 諒人(静岡西)	相馬 彩乃(浜将陽)	松村 大輔(浜将陽)	渡辺 翔太(高 洲)	
一般部初段	岡村 優(西焼津)	瀬底 正吾(浜将陽)	松本 祐輔(浜将陽)	福井 謙介(浜将陽)
澤木 和男(浜将陽)	千葉 陽子(焼将陽)	野谷 典子(焼将陽)	松永 夕子(島 田)	宮脇 信子(川 根)
加藤岡あずさ(静岡西)	実施日：平成23年9月23日(日) 於 静岡市北部体育館 受審者総数30名 合格者18名			

第2回松涛武道祭世界空手道選手権大会



沖縄以来、第二回目となる世界大会「世界松涛武道祭」が9月24・25日の2日間に亘りスコットランドで開催されました。32カ国から約1500人が首都エディンバラに集い、数多くの熱戦を繰り広げました。日本からは38名の選手が出場し、そのほとんどが上位入賞と素晴らしい結果を残すことができました。大会最

初のプログラム「団体親子形」に登場したのが、浜松将陽館の菊地チーム。何と親子三世代での出場ということで会場の注目度も高まる中、見事優勝を飾ってくれました。幸先の良いスタートに目の前スタンド席で陣を構えていた日本人選手団も大盛り上がり。勢いそのままに、本部指導員で構成される団体戦も次々と外国人チームを跳ね除け、男女形・組手でも優勝を手に入れました。2日目は個人戦へと移り、車椅子形では藤田選手・岡村選手がワンツーフィニッシュ。続いて親子形で大活躍した菊地弘基選手が組手で優勝すると、孫には負けてなるものかと菊地将元選手(将陽館々長)も形で、世界のビッグネームを相手に堂々の準優勝。止まらない快進撃の中、出番を待つ私の胸のうちは「表彰台」へのプレッシャー。自分だけ負けるわけにはいかない！という強い気持ちで臨んだ結果、形で5位・組手では何とか3位に入ることができました。今回の世界大会は国内における全国や東海大会と異なり、まさに“お祭り”ムード一色。コート外でも各国独自の応援を披露し、試合が終わると選手の健闘を称えあうかの様に割れんばかりの拍手、選手同士も必ず握手をしてコートを去る光景が素晴らしいと感じました。テレビで見るオリンピックさながらの舞台に自分も立てた気がします。さて、第二回大会の舞台となった「スコットランド」、自身旅行会社員でありながらあまり馴染みの無い国でしたが、今回を機に様々な事を知ることができました。大会の前後にはバスで観光も行いました。ロンドンやパリなどの主要観光地と異なり、人の手が加わっていない史跡・街並み・自然等の素朴さや偉大さに感動しました。大会参加にあたって、“世界大会ツアー”と称し北は北海道、南は九州までの日本全国から選手・先生・応援団約40名が行動を共にしました。初対面の方も多く最初は遠慮も見え隠れしていた中で、日を追うごとにコミュニケーションが増え、同じ日本代表としての絆も深まり、繋がりができたことを嬉しく思います。結果もさることながら、こうした人と人との堺を越えた出会い、未知の発見、舞台に立てたことの感動、全てが忘れられない思い出となりました。次回は2年後のウクライナです、高みを目指しまだまだ頑張りたいと思います。最後に日本の、そして静岡の代表として後押しをして下さった皆様、本当にありがとうございました。(レポート：清水支部 西村和樹)

焼津市スポーツ祭 第 32 回焼津市空手道大会



平成 23 年 10 月 2 日(日)秋空の下、焼津市民体育館にて「焼津スポーツ祭第 32 回焼津市空手道大会」が開催されました。本大会は、焼津市空連に所属する各流派・会派の道場が出場し、今年で 32 回目の開催となりました。形試合では決勝までのトーナメントを全て平安初段で戦い、組手試合では普段使用する事のないメンホーを着用し、松涛連盟の大会

とはルールも雰囲気も異なる中、見たこともない形や鋭い技を目にし、子供達の刺激になった事と思います。私は、コート係として試合をサポートしていて、各選手が懸命に試合に臨み一喜一憂し、惜しくも試合に敗れて悔し泣きする選手や、勝利した選手の試合を観戦し、次は勝つぞ、と意気込む選手、仲間を力一杯応援する子供達の姿を見て、改めて空手道を通しての心の成長を間近で感じ、感動しました。また、選手が気持ちよく試合ができる環境作りや、試合をスムーズに進行させるために、コート係りの重要性を実感しました。本大会では、焼津市内で活躍中の松涛連盟各道場の選手より、優勝者をはじめ多くの入賞者を輩出する事のできた素晴らしい大会となりました。これも日頃よりご指導いただいております多くの先生方をはじめ、県本部技術講習会や強化練習の成果だと感じております。この場をお借りしまして、心より感謝しお礼申し上げます。(レポート：焼津支部 牧野さつき)

県本部主催技術講習会



10 月 2 日(日)に、静岡県本部主催技術講習会が藤枝市の静岡県武道館にて開かれました。会場には、早朝よりスキルアップを狙う熱心なメンバーが続々と集まり、全体での準備体操後に講習が始まりました。午前前半では、少年部の基本講習に並行して一般部(高校生以上)の車椅子講習が行われました。車椅子講習も回を重ねるごとに受講者も増えて操車等、受講者の技術が向上していくのがわかります。午前後半には、今後弐段を受審する会員を対象にしたクラスが新設され、初段との違いや審査ポイント等が種目別に「こうなら、こうなら×」と言ったように、たいへんきめ細かく解説されて、参加者は熱心に受講しておりました。午後は型を中心に、古典型「鶴翼初段」の講義から始まり、とても中身の濃い内容の講義となりました。

第 9 回静岡市葵・駿河区空手道大会



第 9 回静岡市葵・駿河区空手道大会が 10 月 30 日(日)、静岡市北部体育館にて開催された。冒頭、大会会長である松永師範から、旧静岡市と旧清水市が合併した 2003 年からこの大会名となって第 9 回目ではあるが、旧静岡市民大会から通算すると 46 回目(昭和 41 年=1966 年開始)であることを伺った。今大会では型 355 名、組手 306 名のエントリーがあり、相変わらずの盛況であったが、創成期から空手道の普及に取り組んで来られた諸先輩方のご尽力に敬意を表したい。型では今回から拳正会がアーナクを予選型に加えてきたが、運足に工夫のある動作があり、最初に習う型としてはなかなか難しいと感じた。開始前に、永嶋審判長より「正確なジャッジを」と審判団に指示があった。我々のコートでは判定の分かれる事も時折はあったが、最終的には技の優れた者が上位入賞し、適正な審判が出来ていたと思う。組手については、当たったら反則を取るという申し合わせになっていたが、その程度の見極めが審判によって異なり、副審は攻撃側の技ありを取っていたのに、主審は反則とする等、多少の混乱を生じた場面もあった。こちら最終的には勝つべき選手が上位に入っていたが、ポイント制のルールに慣れた他流派の審判が今大会でのルールにギャップを感じているとしたら、その解消は今後の課題かも知れない。大会中、非常に嬉しい出来事もあった。休憩時間中、選手と思しき若者から声を掛けられたのだが、こちらは見覚えがない..!「どなたですか?」と言いそうになった時、思い出した! 以前、出稽古に行っていた道場の生徒で、当時は小さな小学生。今はしっかり追い越され、見上げるばかりに。実は型の試合の時に自分は主審として目の前で彼を見ていたのだが、全く気が付かず過ごしていた。よく見れば子供の頃の面影もあり、知らぬ間にこんなに立派になったかと、嬉しくなった。思えば空手を始めて、いろんな出会いがあり、別れがあり、その中で今回のような再会がある。空手をやって良かったと思える一日だった。今後とも永く続けて行くことを目指したいものだ。(レポート：遠山貴志 静岡北支部)